

- 1 報告地区 : 石狩地区
2 事例報告学校名 : 石狩市立花川小学校
3 報告者 : 校長 松井 明生
4 キーワード : 小中連携に対する取組

I はじめに

本校は、平成24年より北海道教育委員会から学校力向上に関する総合実践事業の指定を受け、緑苑台小学校、双葉小学校、紅南小学校、花川中学校が近隣実践校。そして、花川北中学校が石狩市教育委員会による連携校となり、6校が協力・連携して事業を推進してきた。そのような経緯により、平成28年度から更に小中連携を強化していくため、「花川北地区小中連携協議会」を組織し、様々な取組を行っている。3年間をかけて校長が連携し、リーダーシップを発揮しながら、管理職主体から教職員主体の運営に転換し、本年度からほぼ教職員主体で計画・推進している。

II 実践の概要

一昨年度、まず、花川北地区小中学校6校の校長が中心となり、前年度までの小中連携を意図して行ってきた取組を整理して、教職員向けのリーフレットを作成した。そして、花川中学校区と花川北中学校区とで小中連携の差異が出ないように、具体的な取組を明示し、教職員の共通理解を図った。その後、「花川北っ子」宣言を新たに設定し、広く保護者・地域に発信した。(資料参照)

III 実践の内容

1 企画・推進委員会

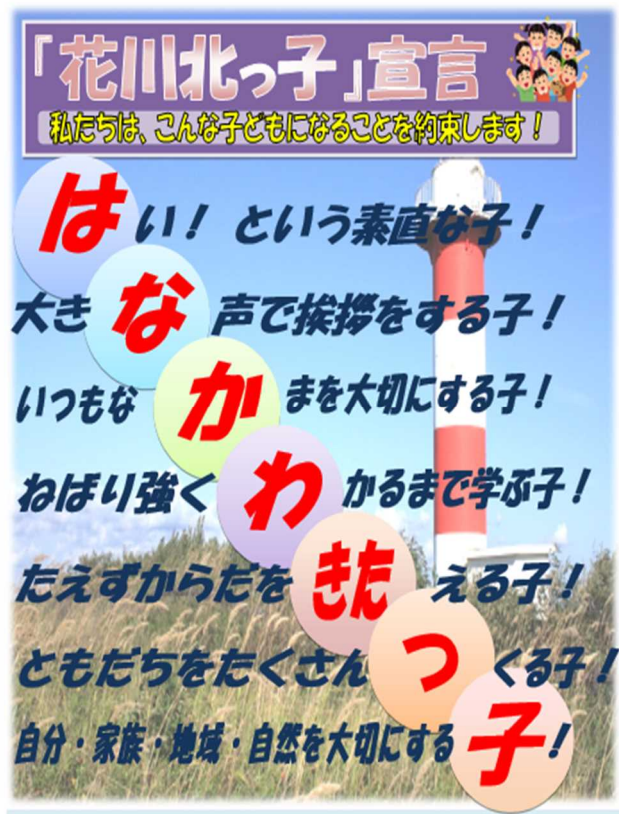
全体統括は、企画委員会として校長が行い、「目指す子ども像」を作成し、連携協議会会長と副会長を選出する。また、推進委員会を教頭が所管し、企画委員会との連携、各委員会への助言、年間計画の立案・推進、児童生徒の実態交流(全国学力・学習状況調査、CRT、全国体力・運動能力、運動習慣等調査等)、小中連携便りの発行などを行い、輪番で連携協議会事務局長を選出し推進する。

2 教育課程委員会

教育課程委員会は、各校の教務主任が担当し、教育課程の交流や接続の立案・推進を担っている。本年度は、道徳教育の全体計画や道徳科の年間指導計画(小学校)、外国語科や外国語活動の年間計画と実践に重点を置いて共通理解を図っている。

3 接続委員会

接続委員会は、各校の教務部、及び小6と中1の担任が担当し、授業公開(指導主事訪問時、参観日等)や指導方法の工夫改善、出前授業の計画・準備、部活動体験の案内作成、吹奏楽部演奏会の計画、文化祭での作品交流、生活リズムの交流・改善、小の6年生担任・中の1年生担任によるTTの実施、新中1春休み帳の作成、Q-Uの活用、引継などを推進する。



4 生徒指導委員会

生徒指導委員会は、各校の生徒指導部が担当し、生徒指導の交流（石教振生徒指導委員会・石教振小中連携研究会）、問題行動の早期解決（情報交換・各学校の対応等）、児童会・生徒会交流などを推進する。

5 研修委員会

研修委員会は、各校の研究部が担当し、「学校力向上に関する総合実践事業」の実践指定校が企画・運営するテーマ研修会やミニ研修会への参加を促す。また、年に一度の中学校区で開催される小中連携研修会での分科会協議の計画・準備も生徒指導委員会と協力して推進する。

IV 取組の中から



中学校の文化祭りハーサルを6年生が見学した後、校内施設見学をしたり、校長からの説明を受けたりする。入学の半年前から中学進学への期待感が醸成されている。



全児童から中学校生活についての疑問をアンケートで集約し、後日各校の教頭が小学校を訪問し、その疑問に答えている。中学校生活への不安解消に効果を上げている。

V おわりに

右記資料をもとにして、具体的に「花川北地区小中連携協議会」を教職員にイメージ化させる手だてを講じたことにより、大きな混乱もなく教職員主体の運営に移行することができた。運営の主体となる企画委員会と推進委員会は管理職が担当し、具体的な取組は、各担当者が責任をもって推進するシステムが構築できた。各担当者も前年度の実践をもとにイメージ化ができ、今年度もスムーズに運営されている。

さらに、各校では、学校便り等で保護者に具体的な取組を紹介し、情報発信に努めているため、保護者からの評価も高い。中学校入学半年前の早い時期から、実際に中学校の校舎に入り、中学生の様子を見たり、中学校の先生から直接、説明を聞いたりできることは、子どもたちにとって刺激があり、好評を得ている。また、二つの中学校に分かれて進学する双葉小学校の児童には、学校間の差異をそれほど意識しないで入学できるメリットは大きいと感じる。

石狩市 花川北地区6校
小・中連携の推進

1. 実践校
花川北地区6校
花川北中地区 花川北中地区
花川中地区 花川北中地区
花川中地区 花川北中地区
花川中地区 花川北中地区
花川中地区 花川北中地区

2. 施策の趣旨
これまでの全国学力・学習状況調査の結果から、基礎・基本の定着や学習習慣の確立などに大きな課題が現れました。
児童生徒が学習内容への理解を高めるためには、市町村教育委員会、地域、保護者との連携・協力の下、小中の段階ごとの学習内容の連続性のある取り組みを促進する必要があります。このため、小中連携による義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る学習指導の在り方等についての実証的な研究を行い、その結果の普及を図ることにより、児童生徒の学力向上を図ることを目的としています。

3. 重点テーマ
① 進学への不安を取り除き、早く学校生活に慣れさせるための取組を進める。
② 学びの継続性を高め、学力の向上を図らせるための取組を進める。

4. 取組の内容
① 義務教育の9年間の見直しと授業改善
② 小中連携した指導方法や指導内容の把握
③ 児童生徒の学力の定着の把握
④ 定着した学習習慣の確立のための「生活リズムチェックシート」の活用
⑤ 学習習慣、運動習慣と生活習慣の改善を図る取組の工夫
⑥ 小学校及び中学校、家庭や地域が連携した学力向上の取組の工夫

5. 具体的な取組
テーマ①に關した取組
【校長による講話アンケート(10月)】【中学校教員による出前授業(11月)】
【児童会・生徒会交流(12月)】【児童・生徒作品交流・吹奏楽部演奏会(12月)】
【入学説明会・授業、総合体験(1月)】他
テーマ②に關した取組